

【奨励賞】

団体名	五所川原6次産業化推進協議会
活動の内容（概要）	五所川原農林高校（以下「五農」）を拠点に、農村の地域づくりや担い手育成を目指し、農業の6次産業化に成功している五所川原市の農業経営者をはじめ、日立製作所などの企業・行政・教育機関が連携し、農業の6次産業化モデルづくりに取り組んでいる。 主な活動 （1）「マイファームセンター」設立によるIT活用農業の試行 （2）地下灌漑（かんがい）水田、田畑輪換、ナノバブル活用による水田の実用試験 （3）果肉が赤いりんご「御所川原」のブランド化 （4）エコツーリズム、アグリスクール等の企画による異年齢交流 （5）研究コンテストとフォーラムの開催 （6）新製品開発研究

受賞理由

- ・我が国にとって地域農業の再生は大きな課題である中、生産から消費に至るまで、一体化した6次産業化が実現しており、次世代型農業のモデルケースとして、全国に先駆けた取組である。
- ・五所川原農業高校が主体となり、行政、大学、経済団体、企業等が連携して一大プロジェクトを展開している。
- ・推進協議会の設立がH24と歴史は浅いが、運営方針を始め関係諸機関との深いつながりなど、取組を継続させる工夫が随所に見られる。
- ・全ての取組において、学校を中心に据えた活動が展開されている。関係諸機関は、適度な距離感を保ちながら学校を支援している様子が見られる。
- ・小学校から高校生まで幅広い年齢層を対象に事業を行っており、異年齢交流がある点も貴重である。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者】

青森県立五所川原農林高等学校、弘前大学、東京農業大学、明治大学、東北職業能力開発大学校附属青森職業能力開発短期大学校、五所川原市教育委員会

【行政】

五所川原市経済部農林水産課、鶴田町産業観光課、青森県西北地域県民局地域農林水産部

【地域・社会】

地域独立行政法人青森県産業技術センター

【産業界】

有限会社豊心ファーム、みちのく産直クラブ、情熱物語、有限会社ケイホットライス、福土農園、津軽鉄道株式会社、株式会社日立製作所、株式会社グランパ、山野りんご株式会社、株式会社みちのくクボタ

活動開始の経緯

農村の少子高齢化、地域経済の低迷は、青森県西北地区でも深刻な問題となっている。地域の資源を再発見、再構築し、農業の6次産業化を中心とした新たな街づくりを目指して、五所川原農林高校が地元企業や関係機関、団体に協力を呼びかけ、賛同を得、平成24年7月に設立した。



五所川原6次産業化推進協議会
(設立総会、平成24年7月実施)

活動実績

- (1) 平成24～25年「日立イノベーションフォーラム」農業イノベーションブース展示。
- (2) 第3～4回全国農業高校お米甲子園「特別優秀賞」受賞。
- (4) 支援学校4校（小学校3校、中学校1校）に対し農業教室・交流活動を実施。平成24～25年JR主催「駅からハイキング」コース掲載、プロデュース及びエスコーター参加。
- (5) 商品4点（みそドーナツ、酢チューベンドリンク酢、赤いりんごピューレパン、カボチャピューレパン）を地元企業と開発し販売。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

五所川原の街づくりについて、これまで各機関が単独では行うことができなかった活動が、協議会で行うことで実施可能となった。具体的には、五農と五所川原市が協力し、果肉まで赤いりんご『御所川原（ごしょがわら）』のブランド化（ピューレ、パウダー等の一次加工品の開発、クラブ制による生産・販売体系の構築）を推進している。また、株式会社日立製作所が協力し、日立製作所のITシステムを活用し、五農の農場内にwebカメラ4台、気象センサー、通信機器を設置し、生産者と消費者をITでつなげるシステム「マイファームセンター」を五農の敷地内で実証試験を開始するなど、協議会員との協力により、活動を推進している。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

年間の活動を事業報告書にまとめ、成果を関係者に共有するとともに、HPを通じ、取組の内容について広く周知している。また、確実に事業を継続するため、生徒たちは作業日誌等作成し、後輩への引継ぎを円滑にする工夫をこらしている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

TPP参加が地域の農業の在り方が大きく変化することが予想される中、本取組は、各機関の長所を生かし、地域を挙げて6次産業化に取り組むと同時に、次世代の担い手を育成することも重視している。

例えば、水位調節を容易とし、環境の変化に柔軟に対応できる他、生育が均一となり、省力化かつ減農薬が可能となる栽培方法である、「福士式地下かんがいシステム」を取り入れた田畑輪換実証試験を行うに当たり、発案者自ら足を運び、将来の担い手となる五農の生徒に指導し、技術の伝達と普及を行っている。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

地域産業の活性化には、地域の持っている力を引き出すことが不可欠である。本協議会で開発した人気商品「みそドーナツ」は、五農が食材と商品開発アイデアを提供し、地元食品関連企業で製造、津軽鉄道(株)の駅舎および車内で販売するといった三者それぞれが持っている力を組み合わせることで完成し、地域に定着している。本協議会には、地元企業や生産者も多く、現在4品が商品化された他、今後も商品化を控えている。地元企業に採用される卒業生も増えており、将来は地域を担う人材となることが期待される。

その他取組の工夫や特記事項

小中学生に対して五農の生徒が、地域資源である五所川原の自然や農業に対して興味、関心を持ってもらうことを目的に、平成24年度より異年齢交流を実施し、これまでに小学生85名、中学生34名の児童・生徒が参加。また高校生も外部の大人との交流と通じて社会性や指導性を身につける機会を設定している。

学校現場の評価・感想・コメント

教職員アンケートによると、取組が地域に開かれているという点において最も高い評価(10月実施)であった。また、近隣の、特に五所川原市内の中学校の先生方からも高い評価を得ている。本協議会の取組に関する視察依頼が、他県の教育関係機関から相次いでおり、農業高校が地域をマネジメントする事例が全国に広がりつつある。

直接連携・協働していない関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど

本協議会の先進的活動が頻繁に新聞やテレビで報道されており地域の関係者の注目を集めている。

関連ホームページ

<五所川原6次産業化推進協議会ホームページ>

<http://www.gosho6.jp/>

<五農高アグリコミュニティホームページ>

<http://gonou.gnu.saas.secureonline.jp/Agriculturist/>

<青森県立五所川原農林高等学校ホームページ>

<http://www.seihoku.asn.ed.jp/~ah/>